

# 特別会計

## 下水道

### 普及相談員の実績

【笹原委員】下水道の普及相談員の活動実績を伺う。

### 上下水道課長

公共下水道への加入を勧めるために166戸、町設置型合併浄化槽の転換を促すため357戸を訪問した。加入はそれぞれ6戸、1戸であった。

### 加入増への取り組み

【笹原委員】下水道などの加入増へ向けて、住宅改修時の支援などの方策はあるか。

### 上下水道課長

ニーズを把握するた

めアンケート調査を行うなどしながら、次の方策を考えていきたい。

## 国民健康保険

### 事業運営基金の在り方

【奥山委員】基金の在り方をどう捉えているか。

【町民課長】現在医療費は県が負担し、町は県へ納付金を納めている。そのため多額の基金を確保する必要性は少ないと考える。

納付金を賄える適正な税率を設定し、必要に応じて基金の活用も図りながら安定した財政運営に努める。

## 介護保険

### 介護サービスの傾向はどうか

【竹田委員】居宅介護サービス費が増加している。在宅介護志向の傾

向になっているのか。

### 健康福祉課長

特にデイサービス利用が伸びた。また訪問入浴介護も伸びているが、その方にあった適切な介護サービスをご利用いただく中での結果と認識している。

【竹田委員】特別養護老人ホームの待機者状況はどうなっているか。

### 健康福祉課長

町内に2カ所あるが、現在の合計で64名となっている。



# 公営企業会計

## 病院事業

### 外来増と入院減

【奥山委員】外来患者の増加と入院患者の減少の要因は何か。

### 病院事務局次長

新型コロナウイルス感染症対策が進み、受診控えが減り外来が増えた。

入院数の減少は、感染対策の徹底などにより、高齢者のインフルエンザや肺炎の感染が減ったためと考えられる。



## 監査意見

町民と行政が心を一つにして地域課題を克服し、「未来につながる町」の実現に向けて着実な施策の展開を願う。

実質収支は8億9368万5千円の黒字となり、実質収支比率は、3・8ポイント上昇し17・1%となった。經常収支比率は、2・4ポイント改善し、86・8%となり、硬直化は見られるが9年連続80%台を維持している。また、将来の財政運営に備えた財政調整基金は3年連続増加している一方、実質公債比率は9・3%と前年度より0・6ポイント上回り増加傾向にあるので、今後ともこれらの指標の推移を注視されたい。

主な事業では、子育て支援、ICT教育の充実、新型コロナウイルス感染症拡大防止及び経済回復対策、緑の循環システム及びゼロカーボン社会の構築、豪雨災害の復旧・復興など、積極的に事業が展開されたことを評価する。

当年度は「第6次白鷹町総合計画」が2年目を迎えた年である。事業の検証を進めながら、町民と行政が心を一つにして地域課題を克服し、「未来につながる町」に向けた施策の展開を願う。

代表監査委員 竹田 謙一  
監査委員 丸川 雅春